

第3回浦和区区民会議 議事録（確定版）

1 日 時：平成 17 年 7 月 21 日（木） 14:00～17:00

2 会 場：さいたま市民会館うらわ 503

3 出席者（敬称略）

団体推薦：大関豊壽（浦和歯科医師会）、小川晃（埼玉中央青年会議所）、小原茂（浦和区自治会）、柿塚一三（浦和区民生・児童委員協議会）、坂場きみ（地区社会福祉協議会）、坂本和哉（浦和区自治会連合会）、大工原潤（元市民懇話会）、中島昌男（さいたま市薬剤師会）、新田博利（浦和レッドダイヤモンドズ）、東一邦（さいたま NPO センター）、藤倉幸親（浦和商工会議所）、吉野勝則（さいたま市 PTA 協議会浦和区連合会）

公募委員：櫛田範子、岡野昭夫、鈴木隆吉

コミュニティ会議委員：秋山忠一（北浦和総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブをつくる会）、岡田唯文（コミュニティキャンパス浦和）、丸山繁子（さいたま市リサイクル女性会議・浦和）、吉岡基代（浦和区四星会）、渡辺修（中山道浦和宿二七の市実行委員会）

浦和区長：宮澤健二

事務局：小泉俊一（総括参事）、新藤茂（区民生活部長）、磯部弘（健康福祉部長）、長島光正（区民生活部コミュニティ課長）、日野徹（調整主幹）、佐藤好英（主幹）、金子秀行（副主幹）、小宮慶太（主任）

運営補助：福田律子（システム科学コンサルタンツ㈱）

4 次第

- 1．開会
- 2．議事
 - (1) コミュニティ会議からの事業計画の説明について
 - (2) 各部会からの報告について
 - (3) 区民まつりについて
 - (4) その他
- 3．閉会

5 内容

開会にあたって

事務局より、7月1日の人事異動にともない新藤区民生活部長、日野調整主幹が着任したことが報告された。

議事概要

- (1) コミュニティ会議からの事業計画の説明について

事務局：コミュニティ会議のからの助成申請は、今年度は、6，9，12月の3期に分け

て募集する。本日は6月に申請のあった9団体の説明を受けることとなる。まず、団体から事業計画をご説明いただき、次に、運営部会長から先日の事前検討による部会としての判断結果の説明をいただき、最後に全体での質疑応答という手順で、順次進めたい。

岸町地区コミュニティ会議「ふれあいコンサート」

(事業概要の説明)

ふれあいコンサートは、学校と父母、地域の高齢者、各種団体が連携して取り組むもので、コミュニティ会議事業としては今年で3年目となる。内容は、障害者と小中学生と一緒に活動し交流を深める「舞台を飾ろう生け花展」、白幡中・岸中のボランティアの生徒や各種団体の協力を得た「親子で遊ぼう 昔の遊び」、小学校や高等学校の金管バンドが出演する「ふれあいコンサート」で構成している。費用面でも昨年度と比較して10万円の経費削減をしている。「浦和区の魅力あるまちづくりプラン」においても、まちかどコンサートを推進していくとしており、このコンサートについても充実を図っていききたい。

(部会の判断について)

今年度の部会では、多くの団体が3年目の区切りを迎えることから、自立ということ意識しており、ふれあいコンサートについても、自立の方向性について考えてほしいという意見があったが、ステージを組むための費用といった難しい面があり、また、浦和駅東口の広場を活用していくことができるのではないかという意見もあったが、団体としては調公園で開催することに意味があると考えているとのことであった。事業内容については異存なしとした。

(意見交換)

議 長：なにかご質問やご要望は(とくになし)。では、この事業については、部会と同様、区民会議としてとくに異存なしとする。

コミュニティキャンパス浦和「区民自らが企画、運営する生涯学習塾」

(事業概要の説明)

平成17年度は高齢者福祉、育児・子育て、初心者対象のパソコン教室、浦和お宝探し、まちづくり(団塊世代を対象にしたもの)について開講することとした。また、「待ち」の姿勢だけでなく、出前講座を実施して参加者を拡大することとした。

(部会の判断について)

この事業に対しては、効率性の向上や事務局の自立的な運営について努力していただきたいことを要望して、事業内容としては異存なしとした。

(意見交換)

委 員：報償費として「スタッフ講習」のための講師料が計上されているが、一般論としてスタッフの能力向上のための報償費を毎回支出するのは、いかがなものか。なるべく低く抑えるよう、努力が必要ではないか。また、講座運営の委託料が計上

されているが、特定の人にノウハウを身に付けてもらえば、もっと低くなるのではないか。相見積はとっているのか。基本的に、予算というものは前年度の実績から積み上げるのではなく、ゼロから考えるものだ。

委員：講座のなかで「来年のプログラムを立ててみよう」という内容に取り組んでみたらどうか。そうすれば、ノウハウの蓄積と経費節減につながる。

団体：今年度は事務局機能を担う人材を一人確保したり、出前講座を開催するなど、予算の削減に努めており、昨年度の補助申請が218万円であったのに対し、今年度は187万円と同じ内容のものを実施することにしている。スタッフが学習プログラムをひとつお作り作成できるようになるまでには、だいたい3年ぐらいかかると言われており、少し長い目で見ていただきたい。

委員：講座講師料の単価に何種類かがあるが、どのような違いがあるのか。また、通信費については、昨年度も携帯電話のことで意見があったと思うが、運営委託先の固定電話を連絡先にするなどの方法はとれないのか。

委員：「あれば便利」という発想で携帯電話を利用するのはやめたほうがよい。

団体：コミュニティキャンパス浦和としての連絡先は必要であり、確保している。講師料の違いは、大学教授クラスか、スタッフ委員かなどによるものである。皆さんの意見を参考に、今後とも経費削減に努力していきたい。

議長：では、この事業については、部会と同様、区民会議としてとくに異存なしとする。

北浦和総合型地域スポーツクラブをつくる会「ふれあいプレイランド」

（事業概要の説明）

北浦和総合型地域スポーツクラブでは、地域の人がそこへ行けば、誰もがスポーツや趣味を楽しめて、生涯を通して継続し、技術や体力の向上、心身の健康づくりに取り組めることを目指している。また、活動を通じて地域の異世代交流と活性化をも目指している。前年度から引き続きの申請であるが、コミュニティ会議支援の制度は、私たち団体の自立に非常に役立っており、感謝している。

（部会の判断について）

この事業は、参加費で運営している自立性の高いもので、参加者も多く、モデルとなるような優れた事業だということで、異存なしとした。

（意見交換）

委員：大変すばらしい事業だ。

議長：この事業については、部会と同様、区民会議としてとくに異存なしとする。

領家立野地区愛育会「ふれあい訪問」

（事業概要の説明）

この事業は、食事会(ふれあい会食)に参加できない高齢者25名から30名を対象に、手作り弁当を届けることにより、安否確認をかねた訪問を行うものである。添加物のない手作り弁当は、一人ぐらしの高齢者に非常に喜ばれ、お弁当の配食は年4回であるが、心待ちにされている。

(部会の判断について)

部会としては、総額が補助金であり自立性に課題があるものの、地域への貢献を評価して、事業には異存なしとした。

(意見交換)

- 委員：市でもお弁当の宅配を行っているはずだが、その事業との違いはなにか。また、安否確認の具体的な内容と、万が一、何かがあった場合の対応はどのようなものか。対象者は要介護度などを考えて選んでいるのか。
- 団体：市の事業は有料で、(工場生産の)普通のお弁当を業者委託で届けるものだ。私たちはほとんどが民生委員であり、お弁当は手作りで無料、お弁当だけでなく健康だよりというリーフレットも持参し、お年寄りの話を聞くことも活動の一つとしている。万一のことがあれば、民生委員は高齢者の緊急連絡先を把握しており、市と協力しながら対応する体制もきちんとできている。ただし、これまでそういう例はない。対象者を要介護度で選んではない。
- 委員：無料か、有料かという点について、どのようにお考えか。無料であるべきだと考えておられるのか。
- 団体：内心は少しでよいので有料にしたいと思うが、対象者の立場からすれば無料がいいだろうと思い、そうしている。
- 委員：年4回では、少ないのではないか。回数を増やしてという声はないのか。
- 団体：民生委員の活動状況とコミュニティ会議事業の補助申請の時期から考えて、10、11月と翌年の3、4月の年4回の配食が限界である。少ないけれども、それを高齢者は楽しみにしていてくれる。これ以上、対象者を増やしたり、回数を増やすのは難しい。
- 議長：この事業については、部会と同様、区民会議としてとくに異存なしとする。

カンゾウを育てる会「ヤブカンゾウなどの自生植物の保護・育成事業」

(事業概要の説明)

今年度は3回目という区切りにあたる。事業を進めていくなかで、保護育成事業や除草作業など活動範囲を拡大するために、この補助事業で購入することのできた機材を活用するとともに、新たに草刈機や替刃などを購入するため、今年度も申請した。カンゾウの自生地に限定せず、地域の排水溝の草刈も行ったりすることで、これまで草刈を市役所に頼んでいたが、その必要がなくなる。また、カンゾウを楽しむ人々が増え、そのための環境整備なども、他団体と協力して進めようとしているところだ。

昨年度、草刈に協力してくださった人たちに対して、ビールを配ったところ、アルコールは認められないとして、その部分について補助金を返還するよう、区から言われた。そもそも、暑いさなかに作業に協力してくれた人たちに、缶ビールの1本を出す人情を理解できないようでは、コミュニティの振興など難しい。また、アルコールは認められないということであれば、お茶代との差額の返還にとどめるべきであって、アルコール代すべてを返還せよというのは違うのではないかと考える。今回の補助金返還に関わる経緯が区民会議に報告されていないということもおかしい。区民会議の意見を聞きたい。

(部会の判断について)

アルコールについては、やはり、歯止めがなくなってしまうので認められない。事業については、NPO 法人化による自立的運営を検討しているとのことであり、異存なしとした。

(意見交換)

委員：ヤブカンゾウの見頃の時期などを PR なさっているか。

団体：先日も NHK のある番組で紹介されている。口コミでも広がっており、見物客が増えている。見頃の時期はその年によって異なるが、7月はじめである。

委員：草刈機の本体の耐用年数はどの程度か。

団体：2～3年程度、丁寧に使っても5～6年程度である。替刃は毎年数枚が必要となる。

議長：この事業については、部会と同様、区民会議としてとくに異存なしとする。

もとにてサロン「地域と世代間のコミュニティの醸成活動」

(事業概要の説明)

昨年度はサロンを開催し、延べ 303 名の参加があった。どのような内容が喜ばれるのかよくわからずに、英会話、作文教室などを手がけてきたが、参加者に希望を聞くなどして、今年度は内容を決めた。なかでも、ストレッチ体操は介護予防として人気が高い。

(部会の判断について)

部会では、事業内容について特に意見はなく、異存なしとした。

(意見交換)

委員：「おしゃべり広場」の経費 33,000 円とあるが、具体的な内容は何か。

団体：ただ集まって話をするだけではなく、お手玉をつくったりしながら楽しもうという内容であり、そのための材料費である。

議長：この事業については、部会と同様、区民会議としてとくに異存なしとする。

アシスト浦和 21「わくわく浦和いきいき祭り」

(事業概要の説明)

私たちは、埼玉県が主催した介護保険研修講座の修了者を中心としたグループである。わくわく浦和区いきいき祭りは、昨年度に引き続き実施するもので、介護予防の視点から、地域の人々と知り合い、交流し、生きがい発見へとつなげる機会となることをねらいにしている。今年度は、昨年よりも参加型の事業に重点をおき、体験コーナーを充実させた。また、浦和レッズ・ハートフルクラブの協力を得て、高齢者も子どもも楽しめる「浦和レッズ・ハートフル体操」を取り入れた。また、浦和区のコミュニティ会議の 1 つであるエコ・グループ浦和とも協力して体験コーナーを実施することになっている。

(部会の判断について)

部会では、昼食を有料にしているのは自立のためにより方向性であるが、メインの教室や講座についても受益者負担の考え方での検討ができないかという意見があり、事務

局からは、収入を安定させるためには、さまざまな団体の協力を得ていかないと、自立の方向性は難しく、検討していただくよう伝えているとお話があった。事業内容については異存なしとした。

(意見交換)

委員：介護保険法の改正に関連したコーナーはないのか。

団体：内部でも検討したが、内容的に難しく、また、改正後の姿が明確でない部分があって相談を受けても正確に答えられない面があり、現段階では保留にしている。適切な人材を探しているところだ。

議長：この事業についても、部会と同様、区民会議としてとくに異存なしとする。

仲本地区コミュニティ会議「浦和駅東口環境美化 / 仲本地区コミュニティ運動会 / 浦和駅東口フェスティバル」

(事業概要の説明)

仲本地区コミュニティ会議では、浦和駅東口環境美化、仲本地区運動会、浦和駅東口フェスティバルの3つの事業を行う。東口環境美化は、すでに4月に1回開催しており、9月以降3回を計画している。コミュニティ運動会については、今年度は高砂小にも呼びかけることとした。東口フェスティバルは、地元商店街が景品やセールのために相当の負担をしていることから、会場設営費などを申請した。

(部会の判断について)

この事業は今年で3年目であり、部会では、今後の事業展開について質問があった。環境美化については、駅前の工事が始まるため中止、運動会は同程度の規模で実施、駅前フェスティバルについては、規模を縮小して実施と考えているとお話であった。今後は、東口再開発事業との連携の方向を、市や区と一緒に考えていくことを要望して、事業内容については異存なしとした。

(意見交換)

委員：来年度以降、自立的な運営につなげていくためにも、東口整備の周辺対策事業との連携の道を探るとよいと思う。

委員：環境美化活動は今後もずっと実施していくのか。それとも、東口の再整備が終わるまでのものと考えているのか。プランターに入れる用土の単価が高いのではないか。

団体：もともとは放置自転車を減らすために、地元としてできることを手がけたものであり、環境美化活動を現在の形で継続するかどうかは、駅前がどのように整備されるかによると考えている。用土を安く買えるところがあるならば、是非、教えていただきたい。

議長：この事業についても、部会と同様、区民会議としてとくに異存なしとする。

浦和区四星会「高齢者の主張出版事業」

(事業概要の説明)

今年度で3回目になる事業で、高齢者に呼びかけて文集作成と文集の発表会を開催す

るものだ。最初に事業を行った時は、あまり関心を持ってもらえない面があったが、実際に発行され、発表会が実施されると、人々の理解も進み、書いてみたいという希望も聞かれるようになった。この活動を通じて、地域コミュニティに参加するようになった人もいる。

(部会の判断について)

部会では特に質問はなかったが、自立性という観点からは、以前も、この団体では広告を集めるなどの努力をなさったが、簡単に集まるものではなく、なかなか難しい面があるとの意見であった。事業の意義を評価して、活動に異存なしとした。

(意見交換)

委員：講師料とあるが、公民館事業のそれと比べて高くないか。どのような方をお願いしているのか。

団体：これまで私たちの活動に助言をしてくださっている大東文化大の片野先生をお願いしている。講演だけでなく、原稿に対する意見など文集づくり全般に対するご助言を含めての金額である。

議長：この事業についても、部会と同様、区民会議としてとくに異存なしとする。では、以上、本日の事業については、いずれも異存なしとの結論としたい。

事務局：コミュニティ会議事業への補助申請の取り扱いについて、説明を申し上げたい。事業に対する補助は、区民会議の意見を踏まえ、市長の権限で決定されるものであり、実際には区長への事務委任として決定、交付されている。事業終了時には領収書のチェックを行い、当初予定になかったものや、補助として認めがたいものは補助対象からはずして精算している。酒類は補助として認めがたいものである。市民の税金から支出される補助については、十分に配慮してチェックしていることをご理解いただきたい。

委員：アルコールは補助の対象かどうかについて、それを対象にしないというのは当然の判断であるけれども、団体の意見にもあったように、区民会議会長もそれを知らないというのは具合が悪いのではないか。報告はあってもよいと思う。

事務局：カンゾウを守る会の事業報告はこの4月末に提出され、事務局と団体とで話し合いを重ねていた。そのために報告が遅れてしまった。団体にはご理解いただくように努めたが、最終的には返還を求めることとなった。

(2)各部会からの報告について

企画部会、広報部会から次の活動経過の報告があった。なお、運営部会の活動経過は、コミュニティ会議からの事業計画説明で報告された部会の検討結果のとおりであるため、割愛された。

企画部会からの報告

今後1年間、どのようなことを議論・提言していくかについて検討した。まちづくり推進プランの内容、実現性、緊急性、具体性、区民会議の役割などを勘案し、次の4つ

のテーマを取り上げていくこととした。

- ・災害時の対策が十分であるか区民の目で調べて検討し、必要と思われることを提言する。とくに、対策が決められていても、区民に周知されていない面があるので、情報告知の面などを中心に、検討する。
- ・緑が少ない浦和区において、ヒートアイランド対策なども念頭におき、緑化の方策、とくに民家の生垣など、区民のものであるが公共性のあるものについて検討していく。
- ・地域振興や地域住民の力を活性化する方法として注目を集めている地域通貨について、研究する。
- ・浦和駅東口再開発事業における市民広場について、ハード・ソフトともに検討し、提言していく。

これらのうち、防災、緑、浦和駅東口については、実際の市の施策がどのように進められているのか、また、提言が反映される余地があるのかを確認するため、次回部会において、関連部署に説明をお願いすることとした。8月9日午後開催する予定である。

また、地域通貨については市の担当部署はなく、樋田委員にレジメ作成と説明をお願いすることとした。

(質疑応答はとくになし)

広報部会からの報告

前回部会ではこの1年の活動について話し合った。活動としては、コミュニティ会議が一堂に会して話し合う「コミュニティの広場」の開催、新しい取り組みとして「区民会議だより」の発行を行っていくとともに、コミュニティ課で作成を予定している「区民便利帳」に協力していくこととした。

「区民会議だより」については、他区とは一線を画した浦和区らしいものをめざしている。今年度は予算をとっていないそうだが、1回は発行したい。「区民便利帳」は区が企画、編集を進めるものであるが、広報部会ではこれがよりよいものとなるよう、区に意見を述べていくこととした。市の発行しているハローマイタウンの引用で終わらず身近な情報を盛り込むなど、区民の立場から見た便利帳となるよう、進言していきたい。

このほか、「コミュニティ会議をつくりましょう」と呼びかけるリーフレットを新しく作ったらどうかという意見がり、東委員が案を作成してくださるとのことなので、今後、検討していきたい。

いずれの活動も準備に時間のかかるものであるため、8月8日の次回部会では、活動スケジュールを早急に固め、それぞれの内容の詰めを進めていくこととしている。

(質疑応答はとくになし)

(3) (仮称)浦和区区民まつりについて

前回区民会議から引き続き、(仮称)浦和区区民まつりについて検討し、委員の互選により小原委員、柿堺委員、大工原委員、藤倉委員、渡辺委員が検討委員会に参加することとなった。区民まつりについての意見交換の概要は次のとおりである。

- 議長：これまで浦和区では、コミュニティ会議が核となっていく二七の市を中心に、区民まつりを育てていこうということでやってきたが、二七の市との二大イベントとして、区の活性化のためにも区民まつりを実施したいというのが、事務局のお考えだったように受け止めた。委員のご意見をお願いしたい。
- 委員：コミュニティ会議が二七の市をやっている、それを区民まつりとしてやっていくというのは、非常に価値の高いことであったと思う。なので、二七の市を核に発展させていくという方向がよいのではないかな。
- 委員：コミュニティ会議主体から、(担い手をより拡大した形に)スイッチしていくという考え方はあるのかなと思った。いずれにせよ、行政主導でない形を考えていくべきだ。
- 委員：浦和区には二七の市、うなぎまつり、花火大会、そのほか地域の祭りが多彩にあり、さらに区民まつりを行う目的と必要性がどこにあるのかわからない。
- 議長：いろいろな祭りがあるが、いずれも「区民による区民のまつり」という性格ではない。検討委員会は「区民による区民のまつり」を考えていこうとするものだ。
- 委員：二七の市は、常盤地区にあった遺産を活用していこうということからはじまった。どうしても常盤地区の祭りにとらえられがちだが、2年目は地区を広げ、3年目でめどをつけようと考えていたし、いずれはコミュニティ会議の枠を超えて区を象徴するものとなるよう、担い手として区民会議などに入ってもらったり、行政との協働を強めたりして、スイッチしていくことも必要かなと思っている。一方で、二七の市と別のまつりを考えていくということは、二七の市を小さくする方向につながる懸念もある。検討委員会では、二七の市を発展させて区民まつりに育てていくという方向も選択肢となるのか。
- 議長：そのとおりである。
- 委員：二七の市を発展させるためには、それなりの広さのある空間が必要だ。また、それぞれの地域に考えがあり、それをまとめてやっていく方法も難しい。
- 委員：地域をまとめるには、そうした説得のできる人が検討委員会に入る必要がある。

(4)その他

- ・次回区民会議全体会は8月20日(土)午後2時から、さいたま市民会館うらわ503で開催する。

以上